

2025年度CUC市民活動サポートプログラム自己点検・評価

評価項目	CUC市民活動サポートプログラム 実施組織による自己分析	自己分析に基づく社会貢献分科会の評価案
1.開設の趣旨について	<p>受講生アンケートの結果として、満足度は「満足した」「やや満足した」が89%であった。また、以下に記載したコメント等、受講生から声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動というくくりにおいて、なかなか手を出せない部分を知るきっかけづくりになりました。</li> <li>・自らが日頃活動している立ち位置を経営的な視点やより広域的な必要性から、見直すことができ、今後の継続的な運営に必要な経営視点を学ぶことができた。今後は社会課題や活動を感じてではなく、より数値的に分析し、効果的な活動に結びつけていきたい。</li> <li>・自分の事業の運営改善や、新しい企画の立ち上げなどに活用したいと思います。</li> <li>・ここに集まった前向きな方々と知り合えてよかったです。今後もなにかつながりを持ちたいと思います。</li> </ul>	<p>A. 開設の趣旨を十分に満たしていると判断できる。</p>
2.教育の成果について	<p>2025年度は全体で7科目（必修7科目）開講しており、以下20名が一定の成績を収め履修証明書を交付された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正規履修生21名のうち19名</li> <li>○部分履修生のうち1名(昨年度、未取得だった科目を今年度部分履修によって修得したため)</li> </ul> <p>受講生アンケートの結果として、理解度は「よく理解できた」「大体理解できた」が87%であった。</p> <p>また、以下に記載したコメント等、受講生から声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒間での助け合いを促す運営方法が非常に良く作用していたと思います。</li> <li>・沢山の情報の活用方法を学ばせていただきました。この知識を深め、いろいろな地域の分析を行っていきたくと考えています。</li> <li>・事前に講義内容を配付くださっていたことで授業に集中できました。経営学やマーケティングという視点を通して自分の活動について改めて考える機会をいただくこともでき、基本理論を通して面白いと感じたので引き続き学びを深めたいと思いました。</li> <li>・座学もありつつ、ワークが多めでとても勉強になりました。</li> <li>・課題に取り組むことで、授業の内容を何度も見直すことになりました。</li> <li>・企画の実行等を行う時の準備について、TODOやタイムスケジュール等をどのように共有したらよいかともやもやしたものがあつたが、問題の整理、それを図示することにより解決に導くことができる事がわかり大変勉強になりました。実践しています！</li> </ul>	<p>A. 教育の成果について十分な教育効果があつたと判断できる。</p>
3.受講生に対する支援について	<p>講義に関する支援については、指導教員が適宜対応を行った。</p> <p>また、受講生が欠席の際の教員への質問の方法等、受講生からの運営面での問い合わせについては担当職員が適宜対応した。</p> <p>3期の講義内容が、共通テストの影響で一部変更(3, 4回と5, 6回の内容を交換)となったが、昨年度の反省から受講生への連絡フローを見直したこともあり、特に混乱なく講義を実施できた。</p> <p>全受講生に履修証明書(対象者のみ)および成績一覧の配布/郵送を完了した。その後、レポート未提出により該当科目(1科目)が不合格となった正規履修生から、「レポートは提出済である」との連絡があつた。</p> <p>講師が確認したところ、送信されなかったメールがシステムエラーの可能性により受信できていなかったことが判明した。正規履修生側にはメールの送信履歴があり、レポート内容も要件を満たしていたことから、履修証明書の交付対象とすることとした。</p> <p>なお、次年度以降はプログラム終了後、履修証明書交付対象者だけでなく非対象者にもメールで連絡し、全受講生が自身の交付対象/非対象を認識できるようにする。</p> <p>加えて、未修得科目の履修について、次年度以内という制限を設けず、2年目以降の追加受講でも合格した場合は履修証明書の交付対象とするよう規定を変更した。これにより、受講生の利便性が向上した。</p> <p>また、6月、9月、11月、3月に交流会を開催し、地域活動発展のための受講生同士・修了生・地域・教職員との交流の機会を設定した。交流会には、いちかわTMO講座受講生をはじめとした、新規参加者が多数参加したことで(6月：新規率64.9%、11月：新規率72.2%)、市川市以外の地域の人も含む新たな出会い、交流の機会を提供することができた。</p>	<p>A. 評価項目について十分な受講生に対する支援があつたと判断できる。</p>
4.自己点検の環境について	<p>2020年度より各科目の終了後及び全授業の終了後に授業アンケートや総合アンケートを実施している。また、外部の方々を招聘し開催している社会貢献分科会において、アンケート結果等を参考にプログラムに関する意見を頂戴し、必要に応じて次年度以降のプログラム運営に反映させることとしている。</p>	<p>A.十分に自己点検の環境について整備されていると判断できる。</p>
5.広報活動について	<p>2025年度は以下の販促・広報活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早割施策(2/16までの申込で受講料5000円引き)</li> <li>・本学ウェブサイト掲載</li> <li>・地域連携フォーラムでのブース出展など本学開催イベントでの告知</li> <li>・いちかわライフネットワーククラブウェブサイト、メルマガ、SNS掲載</li> <li>・自治体関連(広報誌掲載、メルマガ掲載、パンフレット設置)</li> <li>・学生、教職員への告知(ポータルサイト・メール)</li> <li>・過去受講生、イベント参加者等へのメール配信</li> <li>・本学教職員、外部講師、受講生による勧誘活動</li> <li>・保護者への告知(教育後援会役員会での告知、LINE)</li> <li>・「元氣いちかわ会」での告知</li> <li>・『ちいき新聞』記事広告出稿</li> </ul> <p>結果、定員数10名のところ、幅広い年齢層、さまざまな地域から正規履修生21名、部分履修生3名と定員を超えた申し込みがあつた。</p>	<p>A.十分に広報活動を行ったと言える。</p>
6.施設等の設備について	<p>対面授業時には机稼働式の教室を使用することで、双方向型授業やグループワーク等に対応している。</p> <p>また、図書館や共有PC、Wi-Fiの利用を可能としている。</p>	<p>A.十分に施設等の設備について適切に運用されていると判断できる。</p>